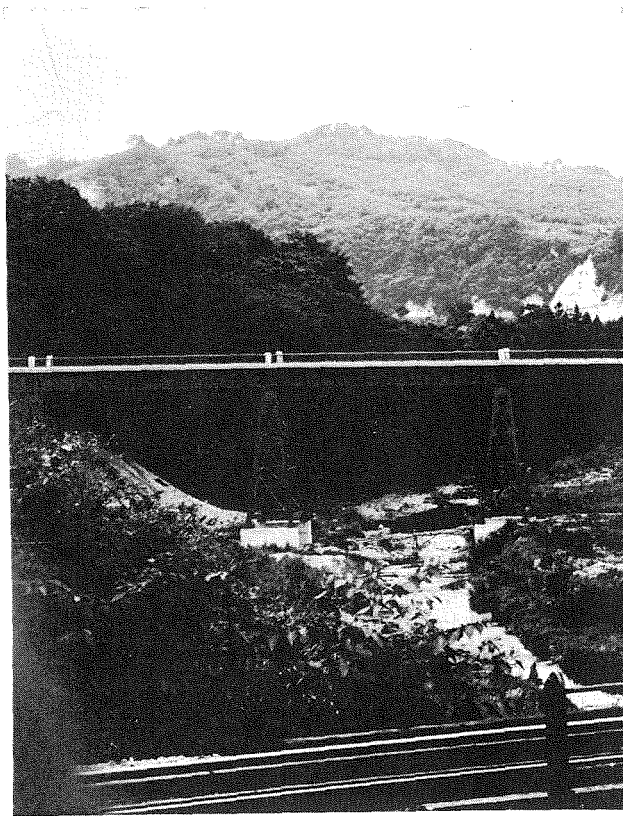


青岩橋架換 工事概要

内務省仙臺土木出張所
青森国道改良事務所主任

内務技師

池田徳治



(1)

路線名 国道4号線
位置 自岩手縣二戸郡金田一村大字釜澤
至青森縣三戸郡留野村大字目時
河川名 馬淵川

設計概要

青岩橋は国道4号線に於て岩手・青森兩縣境を流る、馬淵川に架設されたる橋梁にして兩縣交通上最も重要なる使命を有する橋梁なり。然るに大正3年の洪水に落橋流失し、現今迄其代用として上流に假橋を架設し、辛ふじて交通をなせるも、假橋に至る取付路は急勾配に過ぐるに加へ、迂餘曲折多く、且つ假橋は木橋なるを以て腐朽甚だしく、一般交通機關に對し危険と不安を感ずるの狀態に在りたるを以て、内務省は之が架換及前後取付道路の改良緊要なるに鑑み、昭和9年度時局匡救

土木事業として之を施行せり、工事の大要を記せば次の如し。

橋型・鋼鈹桁橋

橋長・189米、徑間21米×9連

有効幅員・6米。

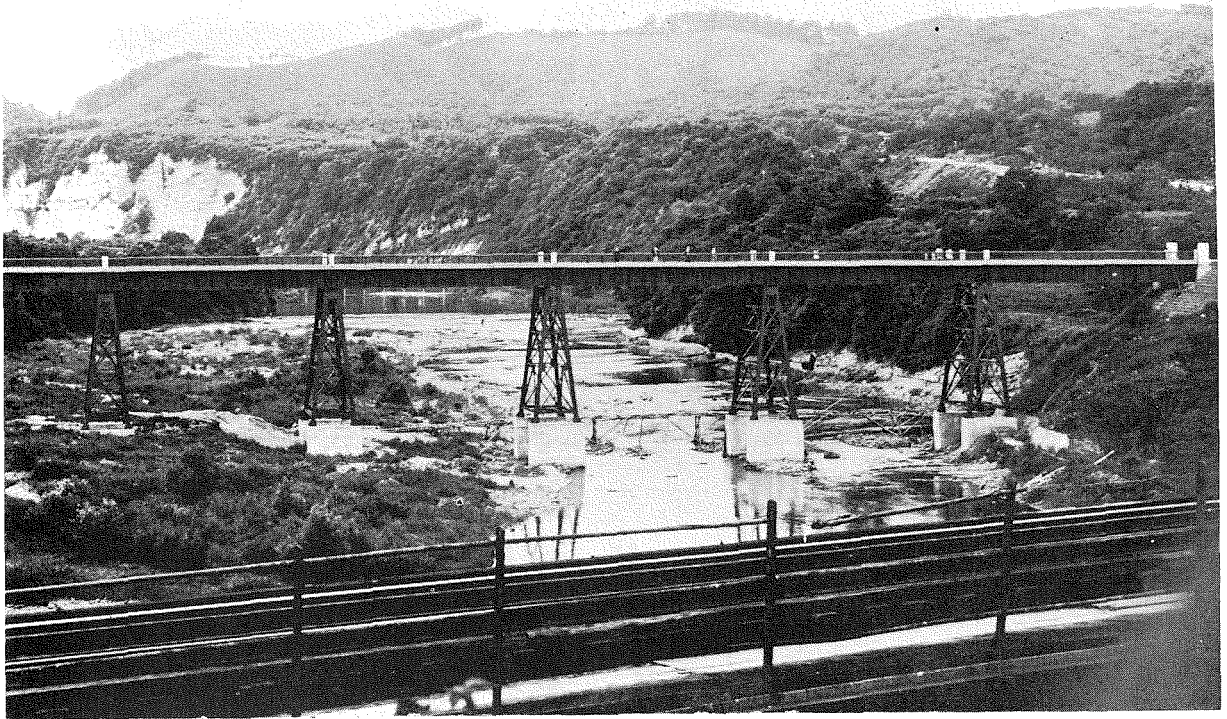
有効橋面積・1,134平方米。

橋面舗裝・コンクリート、配合1:1.5:3、厚5糎。

前後取付道路延長・1,011米。

〔下部構造〕 橋臺は青森縣側は高7米、幅8米厚平均3米の直線重力式、岩手縣側は高2米50糎幅8米、厚50糎L字型コンクリートにして橋脚は高6米、幅5米、厚2米30の矩形脚柱2基を基礎とし岩盤の中に約1米50の根入として底部を構成し、其上に高12米78の鋼構脚を定着せしめて橋脚とせり。

〔上部構造〕 橋體は高1米70、徑間9連の鋼鈹



竣功せる青岩橋全景(手前は東北本線の鐵橋)

桁の上に厚15厘の床版と、厚5厘のコンクリート舗装を施し、両側には高80厘の鑄鐵製高欄及花崗石親柱を配置せり。鋼鈹桁及鋼構脚の製作及架設は東京鐵骨橋梁製作所の請負に附せり。

〔前後取付道路〕 青森縣側の舊來道路は勾配30の1なりしを新に縦斷勾配25分の1に改築し、岩手縣側は最急縦斷勾配30分の1に新設し、橋梁前後30米間は勾配を緩和せり。又青森縣側橋臺を保護する目的を以て護岸兼用の土留玉石積擁壁(高3米)を築造せり。

〔使用材料〕 使用せる主なる材料は下の如し。

セメント	6,461袋
砂利	1,179立方米
砂	589 "
鋼材	383.7噸

丸鐵	25,996匁
(以上橋梁工事に使用す)	
セメント	132袋
砂利	1,546立方米
砂	13.7立方米
(以上道路工事に使用)	

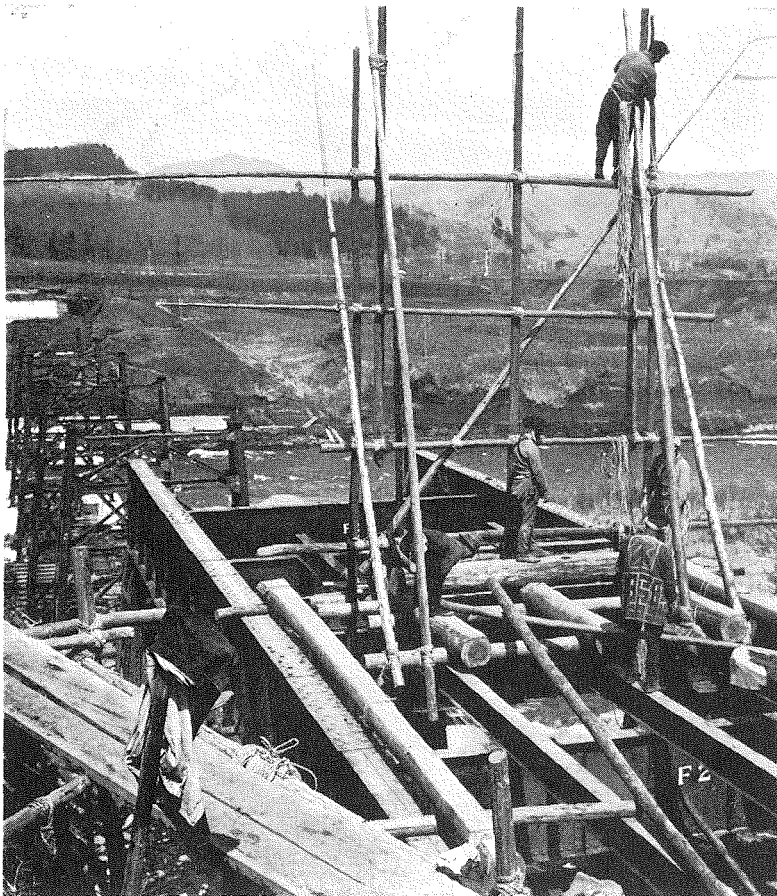
〔工費内譯〕 總額168,000圓の内譯下の如し。

橋梁費	橋臺	4,329.00圓
	橋脚	53,631.00
	橋體	77,547.00
小計		135,507.00
道路費		15,595.00
土地買收及物件移轉費		4,633.00
器具機械費		1,664.00
雜費		10,491.00
合計		168,000.00

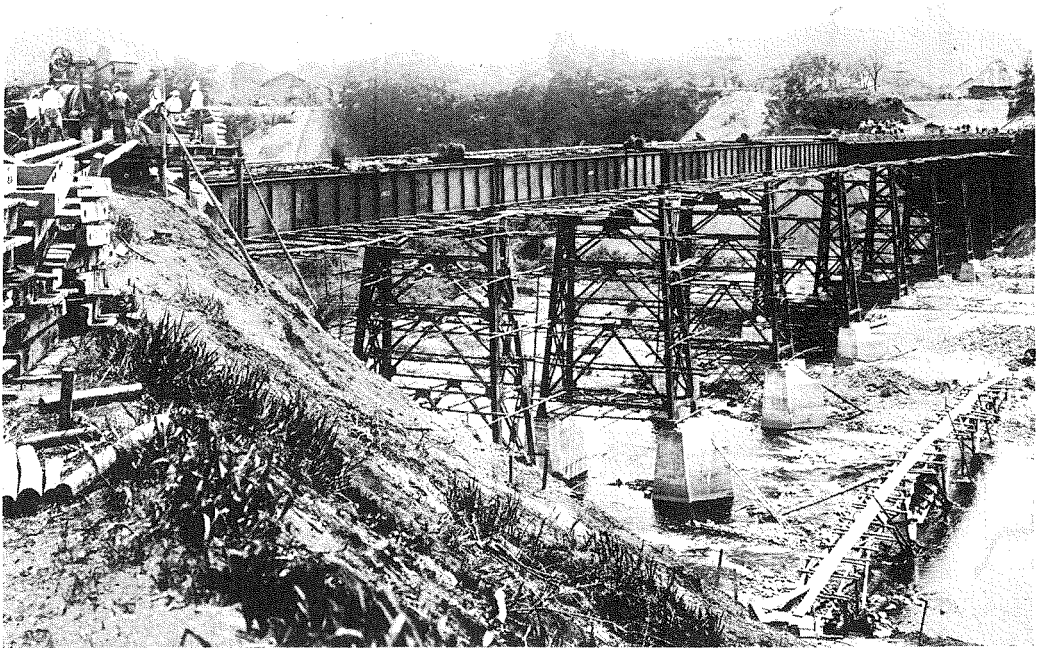
〔使用勞働者延人員〕 44,500人



(2)
青岩橋正面。



(3)
青岩橋プレート・ガード架設の實況。



(4) 青岩橋床版工事状況・岩手縣側より第4連の床版コンクリート打。

〔工期〕 昭和9年9月17日着工、昭和10年8月3
1日竣功。

編者付記

青岩橋の竣功式は去9月19日に舉行された。橋畔青森縣側に祭壇を設け、祭主福田内務省仙臺土木出張所長を始め、青森縣知事(代理土木課長)岩手縣知事(代理土木課長)池田内務省青森國道改良事務所主任、青森岩手兩縣會議長、地元町村長其他來賓300餘名が參列し、福田所長の式辭に次ぎ池田主任の工事報告、來賓の祝辭、祝電披露等あり、花火を合圖に渡初式に移つたが、神官の先行にて青森岩手兩縣から參列の3夫婦2組は青森縣側から靜かに渡り初め、續いて參列者一同が目出度渡橋を了つた。地方色豊かな餘興其他もあり、折柄の秋晴れに此盛典を見物せんと參集したもの數千名にのほり、此地方稀に見る賑ひであつたと云ふ。

